

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○空のゲート機能充実
主な取組	離島拠点空港の国際線受入体制の整備			
対応する主な課題	①空の玄関口である那覇空港については、観光客の増大に対応できるよう那覇空港の滑走路増設、国内・海外誘客を強化するための旅客ターミナルの拡充が大きな課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
国際便運航の促進、空港利用者の利便性や快適性の向上を図るため、新石垣空港や宮古圏域の空港において、国際線旅客ターミナルビルやCIQ施設を整備する。		H29	H30	R元	R2	R3
		新石垣空港エプロン拡張整備				
		新石垣空港国際線旅客施設整備				
実施主体	県、市町村					
担当部課【連絡先】	土木建築部空港課		【098-866-2400】			
		下地島空港ターミナル地区整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度
公共離島空港整備事業									新石垣空港エプロン拡張部の整備を完了させた。	
各省計上	直接実施	-	32,400	77,934	556,135	432,617	0		OR2年度：新石垣空港エプロン拡張部の供用開始手続きを行う。	
南め島国際観光戦略拠点整備事業									新石垣空港ターミナルビル会社にて国際線旅客施設の増改築工事の入札を実施したが応札者がなく不調となった。	
一括交付金(ソフト)	補助	67,378	-	-	0	0	371,651	一括交付金(ソフト)	OR2年度：新石垣空港ターミナルビル会社にて国際線旅客施設の増改築工事を行う。	

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度
下地島空港及び周辺用地の利活用促進事業									なし(平成30年度完了)	
一括交付金(ソフト)	直接実施	-	-	38,000	368,700	0	0		なし(平成30年度完了)	
活動指標名	新石垣空港エプロン拡張整備				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	-	-	-	-	新石垣空港エプロン拡張整備の実施	-	100.0%	432,617	やや遅れ	新石垣空港エプロン拡張整備を行った。新石垣空港において、平成29年度に2回、平成30年度に1回入札不調となっている国際線旅客施設の増改築工事について、入札説明会参加業者との随意契約へ向け、資材価格・技術者確保等に関してヒアリングを行ったが、調整に時間を要し契約には至らなかった。
活動指標名	新石垣空港国際線旅客施設整備				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	-	-	-	-	工事契約に向けて取組	-	20.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名	下地島空港ターミナル地区整備				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			新石垣空港における国際線旅客施設の増改築工事は工事契約に至らず整備に着手できなかったものの、新石垣空港エプロン拡張整備は計画通り完了したため、やや遅れと判断した。
	-	-	-	-	-	-				国際線旅客施設の整備により、国際便運航の促進、空港利用者の利便性や快適性の向上につながる。

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">・新石垣空港においては、国際線旅客ターミナル等の早期供用に向けて、関係機関等との連携を行いながら、整備に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・新石垣空港においては、国際線旅客ターミナル等の早期供用に向けて、関係機関等との連携を行いながら、入札説明会参加業者に対して資材価格・技術者確保等に関してヒアリングを実施したが工事契約に至らず整備に着手出来なかった。



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none">・新石垣空港では、利用客の増加に伴い国際線旅客ターミナルビルが狭隘化している。	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・ターミナルビルの拡張工事の入札を実施したが、技術者不足等のため、公共工事の不調不落が多発している状況がある。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none">・新石垣空港においては、国際線旅客ターミナルの早期供用に向けて、関係機関等との連携を行いながら、整備に取り組む必要がある。・不調・不落対策として入札参加意欲を示す業者に対する働きかけ、及び設計金額の単価見直し及びJV等への発注形態の変更を行う必要がある。	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none">・新石垣空港においては、国際線旅客ターミナルの早期供用に向けて、関係機関等との連携を行いながら、整備に取り組む。・不調・不落対策として入札参加意欲を示す業者に対する働きかけ、及び設計金額の単価見直し及びJV等への発注形態の変更を行う。
--

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	更なる大型クルーズ船の受入体制の構築			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリナーや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
クルーズ船利用者における、安全性・快適性・利便性の確保及びクルーズ船誘致に向けた取組強化に向け、泊ふ頭岸壁における更なる大型クルーズ船の受入、クルーズ船にも対応したコンテナターミナルの岸壁延伸整備、第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		泊ふ頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受入の取組				
		クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備				
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			
		第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)									
予算事業名 国直轄									
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄	OR元年度： 国において、第2クルーズバースの整備を行う。 OR2年度： 引き続き国において、第2クルーズバースの整備を行う。
予算事業名 航行安全調査									
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
県単等		-	-	18,211	-	19,500	-	県単等	OR元年度： クルーズ船の更なる大型化に対応するため、入出港要領の改正を行った。 OR2年度： 引き続き、泊8号岸壁において更なる大型クルーズ船の受入を検討する。

活動指標名	泊ふ頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受入の取組				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	-	-	-	入出港要領の策定	入出港要領の策定	-	100.0%		順調	クルーズ船の更なる大型化に対応するため、那覇港大型旅客船入出港要領の改正を行った。 また、新港ふ頭地区の国際コンテナターミナルにおいて、クルーズ船にも対応可能な岸壁整備が進められているほか、第2クルーズバースの整備も進んでいる。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 泊8号岸壁において、17万トン級の大型クルーズ船に対応するために入出港要領を改正したことにより、クルーズ船の受入体制が強化された。 また、那覇港が「『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾」に指定されたことに伴い、令和元年度より第2クルーズバース整備事業が進められている。 令和元年の那覇港におけるクルーズ船寄港回数は260回となり、初めて全国1位となった。
活動指標名	クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備				R元年度			19,500		
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	-	コンテナターミナルの岸壁延伸工事			-	-	100.0%			
活動指標名	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組				R元年度			19,500	順調	
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	-	-	-	国際クルーズ拠点港湾の指定	第2クルーズ岸壁等の整備	-	100.0%			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 第2クルーズバースの係船柱、防絨材等の付属施設の設計にあたっては、船社と協議を行い必要な整備を行うよう推進する。 第2クルーズバースの2022年春運営開始に向けて、関係機関と連携して必要な予算の確保を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> 第2クルーズバースの円滑な整備に向けて、船社との協議を実施した。 国に対して、第2クルーズバースの早期整備の要望を行った。 				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・クルーズ専用岸壁で受け入れができない大型旅客船を、貨物岸壁で受け入れており、旅客の満足度の低下が懸念される。
- ・平成30年度に那覇港が「『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾」に選定された。
- ・官民連携形成計画書(目論見)の中で、国際クルーズ拠点としての運営開始年を2022年春としている。

○外部環境の変化

- ・令和元年度より第2クルーズバース整備事業が事業化された。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大等の影響により、令和2年2月からクルーズ船の寄港キャンセルが相次いでいる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・新型コロナウイルスの感染拡大等については引き続き情報収集を進めるとともに、関係機関や船社との協議を行い、第2クルーズバース整備推進を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・第2クルーズバースの2022年春運営開始に向けて、関係機関や船社と連携し、必要な整備を行うよう推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港コースタルリゾート・ウォーターフロント整備事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
魅力ある観光リゾートとレクリエーションの地形形成を図るため、那覇港における海洋レクリエーション活動に対応したコースタルリゾート及びウォーターフロントの整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
			港湾計画改訂			
実施主体	那覇港管理組合、浦添市					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	【098-866-2395】		港湾計画改訂手続き	環境アセスの実施	

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
那覇港コースタルリゾートウォーターフロント整備事業							当初予算額	主な財源	調整を行うとともに、配置計画等の検討を行った。	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額			OR元年度：既定計画の見直しについて、関係機関との調整を進めていく。	
一括交付金(ハード)	委託	-	-	-	-	-	-	一括交付金(ハード)		

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
							当初予算額	主な財源	OR元年度：	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額			OR2年度：	

活動指標名	港湾計画改訂の手続き				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	港湾計画改訂に向けた調整	港湾計画改訂に向けた調整	-	57.1%	0 大幅遅れ	大幅遅れ	既定計画の見直しについて、関係機関との調整を行うとともに、配置計画等の検討を進めた。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
・港湾計画改訂に向けて、長期構想検討委員会により、20~30年後の那覇港のあり方について鋭意検討を進める。	・関係機関と調整を行っているが、那覇港港湾計画について調整がまとまっていないことから長期構想検討委員会は開催できていない。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅客者数の増加が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・引き続き、関係機関との調整を密にし、既定計画の見直しについて検討を進める。

4 取組の改善案 (Action)

・港湾計画改訂に向けた長期構想検討委員会開催に向け、那覇港管理組合構成団体間の合意形成に向けた取組を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港人流機能強化整備事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向け、緑地や利便性向上施設等の整備、クルーズ受入促進事業などを促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
		緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： 浦添ふ頭東緑地の整備、及び多言語誘導標識等の整備を行った。
一括交付金(ハード)	委託	157,015	107,375	296,689	100,593	76,816	23,651	一括交付金(ハード)	OR2年度： 浦添ふ頭東緑地の整備、及び泊ふ頭の泊港橋における屋根付き歩道の設置を推進する。

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： OR2年度：

活動指標名	緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	利便性向上に向けた整備				利便性向上に向けた整備	-	100.0%	76,816	順調	浦添ふ頭東緑地の整備を行った。また、泊ふ頭において多言語誘導標識等の整備を行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 浦添ふ頭東緑地の整備により、観光客や利用者の快適性・利便性を向上させることができた。また、泊ふ頭において多言語誘導標識を設置したことにより、観光客の満足度向上に寄与し、取組は順調に進捗した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案					反映状況					
・県及び那覇港管理組合は、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮した屋根付き歩道及び多言語による誘導標識等の整備を推進する。					・浦添ふ頭東緑地の整備や多言語誘導標識等の整備により、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を向上させることができた。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅客者数の増加が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している。

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・今後も引き続き観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮した施設整備に取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮し、泊ふ頭における屋根付き歩道や浦添ふ頭東緑地の整備を推進する。

様式1(主な取組)

「主な取組」 検証票

施策展開	3-(2)-工	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港産業推進・防災事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
生活基盤としての那覇港の機能維持・強化のために、旅客待合所、上屋等の耐震化や長寿命化対策等を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
			新港ふ頭4号上屋延命化(完了)	新港ふ頭5号上屋延命化(完了)		那覇ふ頭1,2号上屋建替(完了)
		旅客船待合所・上屋の延命化、耐震化及び建替等の実施				
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			
ガントリークレーン延命化対策事業						

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 那覇港産業推進・防災事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度
県単等	委託	-	142,985	408,923	230,363	135,709	310,912	県単等	OR元年度： 那覇ふ頭上屋建替事業の実施設計を行うとともに、ガントリークレーン2号機の第3期延命化対策工事を実施した。	OR2年度： 引き続き、那覇ふ頭上屋建替工事を実施するとともに、ガントリークレーン2号機の第4期延命化対策工事を実施する。

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度

様式1(主な取組)

活動指標名	船客待合所や上屋の耐震化、延命化等の実施				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	船客待合所の耐震改修工事等の実施			船客待合所、上屋の改修工事等の実施		-	100.0%	135,709	順調	那覇ふ頭地区において、上屋建替事業の実施設計に着手した。 また、ガントリークレーン2号機についても第3期延命化対策工事を実施した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 那覇ふ頭地区において、上屋建替事業の実施設計を行ったことにより、施設の耐震化・延命化が推進された。 また、ガントリークレーンについても、引き続き延命化対策工事を実施し、安全度の向上を図っており、取組は順調である。
活動指標名	ガントリークレーン延命化対策事業の実施				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	延命化対策工事の実施			延命化対策工事の実施		-	100.0%			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した那覇ふ頭の上屋建替事業については、平成31年度から実施設計に着手し、平成33年度の事業完了を目指す。 ・また、ガントリークレーン2号機の延命化対策事業については、平成31年度に第3期延命化対策工事を実施する。 ・さらに、平成30年度に引き続き新港ふ頭地区の船舶給水設備更新事業を実施し、平成31年度中の完了を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇ふ頭上屋建替事業について、計画通り実施設計に着手した。 ・ガントリークレーン2号機の延命化対策事業について、計画通り第3期延命化事業を実施した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・新港ふ頭上屋は供用中の建物であることから、荷役関係者等と工事のスケジュールや手順について連携を図る必要がある。

○外部環境の変化

・荷役関係者より、上屋の建物老朽化による雨漏り等で荷役作業に支障が出ているとの意見がある。
・上屋の破損や動作不良等老朽化に関する緊急修繕が増えている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・施設の巡回パトロールを強化し、使用者等と連携して、不具合箇所の早期発見、早期解消を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・老朽化した那覇ふ頭の上屋建替え事業については、令和3年度の事業完了を目指す。
・また、ガントリークレーン2号機の延命化対策事業については、令和2年度に第4期延命化対策工事を実施する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港臨港道路整備事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港と背後地あるいは那覇空港との連携を図るとともに、国際交流・物流拠点の形成に必要な効率的で円滑な貨物輸送を確保するために、臨港道路の整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		浦添線完了				
実施主体	国、那覇港管理組合					臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備等
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R2年度					令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源
臨港道路整備事業								
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄
臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備								OR元年度：国において、那覇港の臨港道路臨港道路(若狭港町線)の整備に伴う施工検討を行った。 OR2年度：国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の工事を実施する。
予算事業名		R2年度					令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源
那覇港臨港道路整備事業								
内閣府計上	補助	133,756	25,903	25,903	48,434	190,690	350,000	各省計上
臨港道路港湾2号線改良(液状化対策)								OR元年度：那覇港における港湾2号線改良(液状化対策)を実施した。 OR2年度：引き続き港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、緊急時の港湾貨物の円滑な輸送を確保する。

活動指標名	R元年度				R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要			
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備					臨港道路の改良等	-	100.0%	190,690	順調	活動概要 港湾2号線改良(液状化対策)を実施した。
臨港道路の改良等										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、安全・安心な貨物輸送確保への進捗が図られ、順調に取り組んだ。
活動指標名		R元年度				実績値(A)		計画値(B)	達成割合 A/B	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						
活動指標名		R元年度				実績値(A)		計画値(B)	達成割合 A/B	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						
(2) これまでの改善案の反映状況		令和元年度の取組改善案				反映状況				
		・ 国に臨港道路若狭港町線の早期整備を要望するとともに、臨港道路港湾2号線について、適正な予算確保に努める。				・ 関係者から本土からの資機材の搬入時期等について調整し、特殊な資機材の確保及び適正工期の確保に努めた。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・臨港道路港湾2号線は緊急輸送道路に指定されており、地震時の災害においても安全・安心な物資輸送、貨物輸送を確保するため、早急に整備する必要がある。

○外部環境の変化

・令和元年度に新港ふ頭地区において総合物流センターが開業する等、臨港道路港湾2号線における効率的で円滑な貨物輸送の重要性が高まっており、早急に整備を進める必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・臨港道路港湾2号線については、大規模災害発生時の緊急物資輸送に支障が生じないよう、早急に整備を実施する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・国に対し、計画通りの事業実施を要望するとともに、引き続き臨港道路港湾2号線の整備に取り組む。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	中城湾港・海洋レジャー拠点創出事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元	R2	R3
泡瀬地区については、中城湾港新港地区の浚渫土砂を活用した埋立てにより、スポーツコンベンション拠点の形成を図ることを目的とし、人工海浜や緑地等の整備を行う。 泡瀬地区については、中城湾港新港地区の浚渫土砂を活用した埋立てにより、スポーツコンベンション拠点の形成を図ることを目的とし、人工海浜や緑地等の整備を行う。	緑地等整備				
	泡瀬地区における港湾施設整備				
	船揚場・泊地浚渫等				
	仲伊保地区：船揚場・泊地浚渫				
	船揚場・泊地浚渫等				
実施主体	県				
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】		
	馬天地区：船揚場・防波堤整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	沖縄振興公共投資交付金(港湾)						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
	主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源
一括交付金(ハード)	直接実施	1,901,462	2,194,185	567,643	1,141,915	1,186,353	697,640	一括交付金(ハード)	○R元年度：護岸基礎(約200m)、養浜(約2万m ³)の整備を行った ○R2年度：護岸整備(約200m)、養浜整備を行う。

予算事業名	沖縄振興公共投資交付金(港湾)						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
	主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	104,567	299,421	157,483	218,417	69,714	80,000	一括交付金(ハード)	○R元年度：馬天地区は、取付護岸工の上部工26m、防波堤(波除)の上部工40mを整備。仲伊保地区は、埋立用の公共残土確保、公有水面埋立の変更申請を実施。 ○R2年度：馬天地区は、防風柵基礎の製作及び据付の整備(30m)を実施予定。仲伊保地区は、盛土工(5,000m ³)を実施予定。	
活動指標名	緑地等整備(泡瀬地区)				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
活動指標名	船揚場・泊地浚渫(仲伊保地区)				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
活動指標名	船揚場・防波堤整備(馬天地区)				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">・泡瀬地区について、債務負担行為等を活用した効率的な工程計画により整備を推進する。また、引き続き、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなど、イベント利用等を行う。・仲伊保地区及び馬天地区については、港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。	<ul style="list-style-type: none">・泡瀬地区について、国と連携して、早期整備、部分使用に向けた工程計画の検討を継続的に行っている。また、当該事業に関する関心喚起、理解度向上を目的に、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのイベント(「海の日イベント」)等を実施した。・仲伊保地区は、埋立変更申請により新たな工程に基づき事業スケジュールを立案し、馬天地区は、港湾利用者へ工事の作業内容や工程等の周知を行った。



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p>	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・沖縄市が土地利用計画の検証作業を行っているところであり、今後、計画が見直される可能性がある。・埋立事業について、地元の沖縄市等から早期整備の要請がある。・仲伊保地区及び馬天地区については、工事期間中は、地域住民や定期船などの港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要があり、埋め立てを伴う工事については、環境に配慮し整備を推進する必要がある。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none">・泡瀬地区において、工事期間が短いことや多数の工事が混在すること等を踏まえ、早期整備に向けた効率的、効果的な整備推進が必要である。また、事業を円滑に推進するため、県民に対し当該事業に関する関心喚起や理解度向上を図る必要がある。・仲伊保地区及び馬天地区について、地域住民や港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行う必要がある。・仲伊保地区及び馬天地区について、他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進させていく。	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none">・泡瀬地区について、債務負担行為等を活用した効率的な工程計画により整備を推進する。引き続き国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなどイベント利用等を行う。・仲伊保地区及び馬天地区については、港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	圏域の拠点港湾(石垣港、平良港、本部港)の整備			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元	R2	R3
石垣港、平良港、本部港において、クルーズ船誘致に向け大型クルーズ船に対応する岸壁や旅客ターミナルビルの整備、岸壁整備、ふ頭用地、防波堤の整備を行い、安全性・快適性・利便性の確保に努める。	(石垣港) 岸壁・防波堤・泊地浚渫等				
	大型旅客ターミナル整備等				
	第2クルーズバス岸壁等の整備に向けた取組				
	(平良港)				
	港湾計画改定手続き				
	岸壁・臨港道路整備 R2供用開始				
	ターミナルビル整備 R2供用開始				
	・耐震強化岸壁整備 ・ふ頭用地、臨港道路・緑地等の整備				
	(本部港)	防波堤整備(供用)	岸壁整備(供用)		
	岸壁・防波堤の整備				
実施主体	国、石垣市				
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】				

2 取組の状況 (Do)



(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 石垣港港湾改修事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R元年度：国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行った。	
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	○R2年度：国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行う。	
予算事業名 平良港港湾改修事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R元年度：国直轄において、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁の整備を実施した。	
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	○R2年度：国直轄において、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁の整備を行う。	
予算事業名 本部港(本部地区)港湾改修事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R元年度：岸壁(-10.5m)の整備を実施した。	
内閣府計上	直接実施	1,599,926	2,408,002	1,296,537	1,441,302	2,132,826	962,080	内閣府計上	○R2年度：前年に引き続き、岸壁(-10.5m)、泊地浚渫の整備を実施する。	

様式1(主な取組)

活動指標名	大型旅客ターミナルの整備等(石垣港)				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	100.0%	2,132,826	概ね順調	石垣港については、大型旅客船ターミナル整備事業を実施し、同岸壁の暫定供用も開始された。平良港においては国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁等の整備を実施した。また、本部港においては国際クルーズ船が寄港が可能な岸壁、泊地浚渫及び防波堤沖の整備を実施した。	
活動指標名	岸壁、臨港道路、ターミナル整備等(平良港)				R元年度						
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	60.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	石垣港については、国において計画的に進捗がなされており、本部港においては岸壁の整備を実施し、沖防波堤整備もH30年度に全延長240mが完了している。ターミナルビル整備において平良港は形成協定、本部港は覚書を締結できていないため全体的な進捗としては概ね順調とした。
活動指標名	岸壁・泊地浚渫、ターミナルビル整備等(本部港)				R元年度						
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	100.0%				
(2) これまでの改善案の反映状況											
令和元年度の取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> 石垣港・平良港では、県として、引き続き、国、石垣市及び宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。 本部港では、環境に配慮し、関係者の理解を得ながら整備を進め、さらにクルーズ船社と覚書の早期締結に向けた協議を進める。 						<ul style="list-style-type: none"> 国に対し、事業の早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図った。 本部港の工事の際は、港湾及び海域利用者へ工事内容の周知及び連絡体制を整え密に連携をとって、環境に配慮した施工をおこなった。 					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 国、石垣市及び宮古島市に対し、事業の早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図った。 本部港の工事の際は、港湾及び海域利用者へ工事内容の周知及び連絡体制を整え密に連携をとって、環境に配慮した施工をおこなった。 	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事の際は、港湾及び海域利用者へ工事内容の周知及び連絡体制を整え密に連携をとって、環境に配慮した施工を行った。 CIQ機関のうち、調整が整っていなかった厚生労働省所管の人検疫機能の確保については、検疫法第21条(検疫港以外の港における検疫)による対応を行うことで協議が整っており、現在、那覇検疫所と関係部局からなる調整会議を設置して協力体制の整備を進めている。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none"> 工事を行う際は、環境に配慮するとともに、港湾及び海域利用者の理解と協力を得ながら整備を推進する必要がある。 人検疫対応について、検疫法第21条(検疫港以外の港における検疫)による対応に向けて引き続き調整会議を開催し、検疫所と県並びに地元関係機関との役割分担等を調整しながら、供用開始までに体制整備を進める。 	



4 取組の改善案 (Action)
<ul style="list-style-type: none"> 石垣港・平良港では、県として、国、石垣市及び宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。 本部港では、環境に配慮し、関係者の理解を得ながら整備を進め、さらにクルーズ船社と覚書の早期締結に向けた協議を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	那覇空港自動車道の整備			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇空港と沖縄自動車道を連結し、本島中南部・北部の各拠点の地域振興の支援、物流の効率化及び交通混雑の緩和を図るため、高規格幹線道路として那覇空港自動車道(小禄道路)の整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	国					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課 【098-866-2390】					
		小禄道路の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 道路交通円滑化改築 (国道506号)							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度: 国直轄で、小禄道路の整備を行った。 県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 OR2年度: 国直轄で小禄道路の整備を行う。 県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄		
予算事業名 国直轄事業県負担金 (国道506号)							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度: 国直轄で、小禄道路の整備を行った。 県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 OR2年度: 国直轄で小禄道路の整備を行う。 県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	
県単等	負担	185,144	371,336	355,014	485,340	637,000	637,000	県単等		

活動指標名	小禄道路の整備				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	100.0%	637,000	順調	国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 小禄道路の事業進捗率は約47%で整備は着々と進んでおり順調とした。 取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案					反映状況					
・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。					・県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	沖縄西海岸道路の整備			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
中南部圏域西海岸の地域拠点、広域交流拠点（那覇空港、那覇港）、高規格幹線道路（沖縄自動車道、那覇空港自動車道）を相互に連絡し、物流の効率化、交通渋滞の緩和を図るため、地域高規格道路として沖縄西海岸道路の整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		浦添北道路 暫定供用				
実施主体	国					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課 【098-866-2390】					
		読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R2年度					令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
道路交通円滑化改築事業（国道58号）								
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄
国直轄事業県負担金（国道58号）								
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	負担	353,994	386,478	389,195	152,189	103,000	55,000	県単等

令和元年度活動内容と令和2年度活動計画

OR元年度： 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。

OR2年度： 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行う。県は、当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。

活動指標名	読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	事業の実施	事業の実施	事業の実施	事業の実施	事業の実施	—	100.0%	103,000	順調	国直轄で、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 読谷道路の事業進捗率は約34%と、沖縄西海岸道路の整備は着々と進んでいるため、順調とした。 取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案					反映状況					
・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。					・県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	ハシゴ道路等ネットワークの構築			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関間士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
都市部の渋滞緩和、観光支援及び物流の効率化等を図るため、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶハシゴ道路をはじめとする幹線道路ネットワークの整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
				浦添西原線(嘉手苅~小那覇) 供用		
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課 【098-866-2390】					
		浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	地域連携推進事業費 (地域高規格道路)						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
内閣府計上	直接実施	840,031	1,855,703	1,634,770	1,645,742	2,157,421	5,524,153	内閣府計上	OR元年度: 南部東道路(橋梁工事、道路改良、用地補償)の整備を行った。	OR2年度: 南部東道路(橋梁工事、道路改良、用地補償)の整備を行う。
予算事業名	社会資本整備総合交付金(道路)						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
内閣府計上	直接実施	5,163,282	6,897,653	5,563,770	3,668,957	3,625,784	6,341,515	内閣府計上	OR元年度: 宜野湾北中城線の終点となる渡口交差点を一部改良したほか、浦添西原線(用地補償等)等の整備を行った。	OR2年度: 浦添西原線(用地補償等)、那覇北中城線(用地補償等)、宜野湾北中城線(道路改良等)等の整備を行う。
予算事業名	沖縄振興公共投資交付金(街路)						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
一括交付金(ハード)	直接実施	6,584,954	5,094,267	3,220,178	2,150,656	2,967,628	5,737,234	一括交付金(ハード)	OR元年度: 汀良翁長線(用地補償等)、豊見城中央線(用地補償等)、糸満与那原線(用地補償等)等の整備を行った。	OR2年度: 豊見城中央線(用地補償等)、真地久茂地線外1線(用地補償等)、胡屋泊瀬線(用地補償等)等の整備を行う。

活動指標名	浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
		整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	86.0%	8,750,833	概ね順調
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
・ 国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、部分的な開通等により、事業の早期効果発現を図る。 ・ 継続事業箇所にも主要渋滞箇所が含まれる場合は、先行して交差点部の改良を行うなど、早期の渋滞緩和に取り組む。						・ 南部東道路や宜野湾北中城線の部分供用開始に向けて、整備を推進した。 ・ 宜野湾北中城線の4車線整備に伴い、主要渋滞箇所である渡口交差点の一部改良を行った。				

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・買収済み用地が点在しているため、工事発注できない。

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・工事発注が可能となるよう連続した用地を取得する必要がある。
- ・継続事業箇所主要渋滞箇所が含まれる場合、事業の早期効果発現を図るため、渋滞箇所の用地を集中的に取得し、先行して改良を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・工事発注が可能となるよう連続した用地取得に取り組むとともに、部分的な開通等により事業の早期効果発現を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	沖縄都市モノレール延長整備事業			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
沖縄自動車道と結節を図ることで、定時で利便性の高い公共交通ネットワークを形成・拡大させ、公共交通機関の利便性を向上させる。		H29	H30	R元	R2	R3
		79% モノレール延長整備事業進捗	100%	供用開始		
実施主体	県、市、事業者					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課、道路街路課【098-866-2408、098-866-2390】					
		・延長区間：那覇市首里汀良町(首里駅)～浦添市前田 ・延長距離：4.1km(4駅) ・終着駅と沖縄自動車道とを接続するためICを整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	沖縄都市モノレール延長整備事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：モノレール整備に関連するインフラ部、関連道路・街路及びP&R駐車場の整備を行い、うちインフラ部及びP&R駐車場が供用開始した。	
							214,444	一括交付金(ハード)	OR2年度：モノレール関連道路・街路の整備を行う。	
一括交付金(ハード)	補助	12,422,371	14,746,257	18,830,767	13,502,488	7,531,156				
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：	
									OR2年度：	

活動指標名	モノレール延長事業進捗率				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		40.0%	58.0%	79.6%	88.4%	97.9%	100%	97.9%	7,531,156	順調
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
・モノレール延長整備事業第4駅(てだこ浦西駅)周辺を含むモノレール延長区間の整備及びパークアンドライド駐車場の整備について、県、地元市及び沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を開催し連携していくとともに、工程計画を共有するなど、事業の円滑な実施に取り組む。 ・関連道路の整備については、用地取得に際して地元町の協力も得ながら早期に取得し工事を推進する。						・調整会議等の取組の結果、沖縄都市モノレール首里～てだこ浦西駅までの区間を供用開始し、それと合わせてP&R駐車場も供用を開始することができた。 ・数筆の未買収用地が残るが、道路の暫定供用開始に大きな支障はなかった。また、契約交渉は概ね整っているため令和2年度には契約できる見込み。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

- ・ 浦添前田駅周辺区画整理事業およびだこ浦西駅周辺区画整理事業2事業の遅れ

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 一部を除きモノレール関連施設や周辺道路の暫定供用を既に開始しているが、周辺道路の一部の整備を担っている他事業の遅れにより交通ネットワークが不完全な部分があり、モノレール関連施設の利用者にとってアクセス方法がわかりにくい状況があるため、これを改善することにより公共交通への転換をさらに促す。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 関連する他課と連携し、周辺の道路整備を進捗させる。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	パークアンドライド駐車場の整備(第4駅周辺等)			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させるため、モノレール第4駅(てだこ浦西駅)に隣接しパークアンドライド駐車場を整備し、公共交通機関の利用促進や利便性の向上を図る。		H29	H30	R元	R2	R3
		922台 パークアンドライド 駐車・駐輪台数		1,922台		
実施主体	県、市		・延長区間第4駅周辺での大規模駐車場の整備 (1,000台規模)			
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課		【098-866-2408】 ・モノレール駅交通広場での駐輪場の整備			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 都市モノレール効果促進事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度:	令和2年度活動計画
一括交付金(ハード)	補助	7,776	470,677	583,021	813,248	1,741,901	0		OR元年度: 駐車場本体は令和2年9月30日に供用開始し、一部エレベーター棟整備に遅れがあったものの、令和2年2月中旬に供用開始した。 OR2年度: -	

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度:	令和2年度活動計画
									OR元年度:	
									OR2年度:	

活動指標名	パークアンドライド駐車・駐輪台数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	922台	1922台	1922台	100.0%	1,741,901	順調	活動概要 パークアンドライド駐車場の本体工事、付属棟工事、機械工事、電気工事を実施し、令和元年10月末までに全ての工事が完了した。付属棟の一部で他の関連工事の影響により供用開始が2月中旬頃まで遅れた。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 パークアンドライド駐車場及び駐輪場について、令和元年度にすべて供用開始したため計画どおり進捗した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
・パークアンドライド駐車場整備事業を円滑に実施するため、発注者、関連工事施工者との間で、調整会議等を開催する。	・調整会議等を開催したことにより、令和元年度内に全ての施設が完了し供用開始を行うことができた。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・パークアンドライド駐車場について、供用開始後は指定管理者により管理運営が行われている。

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・渋滞緩和や低炭素化を図るため、モノレールを含む公共交通機関への利用転換を促進する必要がある。また、同取組について指定管理者や沖縄都市モノレール(株)と連携しながら周知啓発等を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・公共交通機関への利用転換やパーク&ライド駐車場(自動車からモノレール等への乗り継ぎ)の利用について、周知啓発を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○観光地巡りが楽しくなるみちづくり
主な取組	観光周遊自転車ネットワークの形成			
対応する主な課題	⑤中・高齢者及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
自転車道利用環境の整備による観光周遊自転車ネットワークを形成し、これまでのレンタカーによる観光から、自転車の利用促進も含めた多様な交通環境への転換を図り、観光まちづくりに取り組む。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		観光周遊自転車ネットワークの選定、整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 公共交通安全事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： 本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会にて、観光周遊自転車の取り組み内容について検討を行い、一部区間を整備した。	
一括交付金(ハード)	直接実施	433,156	309,400	81,930	39,148	26,424	47,175	一括交付金(ハード)	OR2年度： 引き続き、本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会で取り組み内容及び整備について検討を行う。	

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：	
									OR2年度：	

活動指標名	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	—	—	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	80.0%	26,424	概ね順調	本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会において、各関係機関の取組状況の確認、現状の課題、今後の進め方を確認した。新たに市町村にて、ショートコースのルート設定がなされた。 また、サイクルツーリズムのルート、ショートコースのルートにおいて、自転車通行空間の整備を行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会において、各関係機関の取組状況の確認、現状の課題、今後の進め方を確認を行い、新たに市町村にて、ショートコースのルート設定がなされた。 また、サイクルツーリズムのルートで1.3km、ショートコースのルートで1.7km自転車通行空間の整備を行った。 会議では、まだ取り決める事項があるが、取り組み内容が進捗し、整備も進んでいることから、概ね順調としている。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会を通して、走行環境等の整備方針に関する提案を行い、多方面の意見を取り入れ、具体的な整備内容を決定できるよう取り組む。 受入環境や、魅力づくり、情報発信等の整備について同協議会の各委員と協議し、受入環境整備、魅力づくり、情報発信等、総合的な改善を図っていけるよう協力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 本部半島・羽地内海サイクルツーリズム、ショートコースの一部区間で自転車通行空間の整備が行われた。 協議会の中で、関係機関が受け入れ環境整備、魅力づくり、情報発信等の改善内容について、現状、課題を確認し、今後の方針を取り決めた。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

-

○外部環境の変化

・他県の先進事例では、受入環境整備、魅力づくり、情報発信等の取り組みを確立させ、観光地として認知されている地域がでてきている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・観光周遊自転車ネットワークの形成については、走行環境の整備だけでは、効果を発揮できないため、国、市町村、関係機関と連携して受入環境整備、魅力づくり、情報発信等の改善方策や、役割分担を検討し、他県の先進事例を参考にサイクルツーリズム推進にかかる総合的な改善を図っていく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会を通して、他県の先進事例を参考に走行環境等の整備方針に関する提案を行い、多方面の意見を取り入れ、具体的な整備内容を決定できるよう取り組む。

・受入環境や、魅力づくり、情報発信等の整備について同協議会の関係機関と協議し、受入環境整備、魅力づくり、情報発信等、総合的な改善を図っていけるよう協力していく。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	沖縄フラワークリエイション事業			
対応する主な課題	⑤中・高齢及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、観光地アクセス道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、沖縄観光のイメージアップと振興に寄与する。		H29	H30	R元	R2	R3
		70km 道路緑化・重点管理延長				80km(累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		観光地アクセス道路の緑化・重点管理				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 沖縄フラワークリエイション事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R元年度： 国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施した。	
							424,000	一括交付金(ソフト)	○R2年度： 観光地へアクセスする道路への緑化・重点管理を推進する。計画値：80km(累計)	
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R元年度：	
									○R2年度：	

活動指標名	道路緑化・重点管理延長				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	60km	70km	70km	80km	80km	75km	100.0%			
活動指標名					R元年度			374,206	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所の環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図る。 道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。 						<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロール等を実施し、草花等の育成管理を年間通じて実施した。また、季節や植栽箇所の状況等に応じ、草花や花木を選定し、植物が良好な状態を保てるよう灌水などの対応を取った。また、造園業者と意見交換会を実施し、品質の向上に努めた。 道路ボランティアの支援と普及に努め、前年度の399団体から、440団体まで増加させることができた。また、民間を活用した他府県の先進事例を調査した。 				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・沖縄観光のイメージアップのため、観光地までの主要アクセス道路について、年間を通して花と緑のある良好な道路空間を創出し、道路景観の向上と維持させる取り組みが求められている。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・年間を通して花や道路植栽を良好に保つためには、気候や周辺環境に応じた花木や草花を選定し、適切な育成点検や灌水を行う必要がある。

・メリハリある植栽・維持管理を行い、かつ効果が持続的で、良好な沿道景観の維持・向上に努める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所の環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図る。

・道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	〇魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	主要道路における沿道空間の緑化事業			
対応する主な課題	⑤中高齢及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、主要道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、温暖化防止に寄与する。		H29	H30	R元	R2	R3
		280km 道路緑化・育成管理延長				300km (累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		亜熱帯性気候を活かした道路植栽・街路樹の育成管理				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度
県単等	委託	784,645	930,757	933,724	1,109,380	1,193,756	1,194,847	県単等	OR元年度： 主要道路(290km)について、沿道空間における除草や道路植栽・街路樹の剪定を本年実施した。	OR2年度： 効率的・効果的な除草作業と、道路植栽の適正管理を実施し、沿道環境に配慮した道路空間の創出を図る。

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度

活動指標名	道路緑化・育成管理延長				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	280km	280km	280km	285km	290km	290km	100.0%	1,193,756	順調	主要道路(290km)について、沿道空間における除草や道路植栽・街路樹の剪定等を実施した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 道路緑化・育成管理を延長距離で290km行い、計画値どおり順調に取り組むことができた。令和元年度においては、雑草の刈払いに加え、除草剤やアレロパシー植物を使用して効率的・効果的な雑草対策に取り組むことで、道路植栽の適正管理が行えた。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 当該ガイドラインに基づいた管理を継続し、実証試験区のモニタリングするとともに、新たな雑草防除及び景観形成に有用な植物の導入試験の実施等により、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る。 路線ごとの課題を整理したうえで優先順位をつけて街路樹の剪定を行う。 道路ボランティアの普及啓発に向けて、民間を活用した他府県の先進事例の調査や、県内の優良事例の学習会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインに基づき管理を行い、アレロパシー植物や芝等における実証試験のモニタリングや各土木事務所を含めたワーキング会議の実施により、フォローアップを行い、有効な植栽管理について意見交換を行った。また、芝の活用や新たなアレロパシー植物の試験施工を行い、良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図った。 道路利用者の安全性を考慮し、街路樹剪定を行った。 道路ボランティアの支援と普及に努め、前年度の399団体から、440団体まで増加させることができた。また、民間を活用した他府県の先進事例を調査した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・主要道路における沿道景観の緑化事業については、沿道環境に配慮した道路空間の創出のため、年4回程度の除草作業が必要であり、路線の状況に合わせて除草回数を増やしたり、雑草の刈払い後に除草剤を散布するなど、効率的・効果的な植栽管理が必要である。

・街路樹の剪定について、道路利用者の安全性確保を優先し、交差点部など必要最小限しか行えず、適正管理の観点からは改善すべき点が多い。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・道路植栽の管理については、「沖縄県沿道景観向上技術ガイドライン」に基づき、雑草の刈払い後に除草剤を使用するなど、効率的・効果的な管理を行っており、今後も、当該ガイドラインに準じた作業を周知・徹底し、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る必要がある。

・街路樹の剪定については、路線状況に応じて優先順位をつけるなど、街路樹の管理の改善に取り組む必要がある。

・道路ボランティアとの協働による美化にも取り組んでおり、継続してボランティアの支援強化と普及啓発にも努めていく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・当該ガイドラインに基づいた管理を継続し、実証試験区のモニタリングするとともに、新たな雑草防除及び景観形成に有用な植物の導入試験の実施等により、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る。

・路線ごとの課題を整理したうえで優先順位をつけて街路樹の剪定を行う。

・道路ボランティアの普及啓発に向けて、民間を活用した手法の検討や、ボランティアマニュアルの作成等を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	宮古広域公園整備事業			
対応する主な課題	⑤中・高齢者及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
伊良部大橋の開通により一体となった宮古圏域において、観光振興と定住環境の整備に寄与する広域的なレクリエーションの場として、宮古広域公園を整備する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	県、宮古島市					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】					
		基本設計、環境アセス、用地補償、整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	宮古広域公園基本設計等事業費						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
							県単等	委託	25,482	37,734

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	

活動指標名	基本設計、環境アセス、用地補償、整備				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		-	-	-	-	環境アセスの実施	-	100.0%	13,280	順調
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
								進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果		

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和元年度の取組改善案	反映状況
・基本方針「海と海辺を活かした公園」を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園の早期整備に向け、引き続き推進会議で連携を図り、都市計画決定の手続きを進める。	・都市計画決定に係る諸手続を行うとともに、環境アセスを実施し、県都市計画審議会を開催した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・宮古島の観光スポットとして根付きつつある民間施設が公園予定地内の中央部に位置しており、有効活用方法を検討する必要がある。

○外部環境の変化

・平良港「国際クルーズ拠点」の指定に伴い、近年、宮古圏域における外国人観光客は大幅に増加しており、観光リゾート地としての魅力向上を図るため、広域的なレクリエーション需要に対応した広域公園の整備に努める必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・エコアイランドとしての宮古圏域のイメージを活かした施設を検討していく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・当該公園の基本方針(海と海辺を活かした公園)を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園の施設設計を行うため、関係機関等との協議体制をつくり検討を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○誰にでも優しい観光地づくり
主な取組	案内表示の充実強化(道路案内標識等)			
対応する主な課題	④外国人観光客の受入体制については、多言語表記による観光案内板の整備などが観光客数の拡大傾向に追いついていないことや、国際的な観光地に比べ脆弱な決済インフラや通信インフラの解消が課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
道路案内標識の適切な設置および修繕・更新を行うとともに県内の主要な地名を示す目標地や主要な観光地を示す著名地点等をローマ字、英語を併記することで外国人観光客等の道路利用者に対してわかりやすい情報提供を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		12基				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【098-866-2665】			
		案内標識の設置・更新・修繕				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 公共交通安全事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度: 案内標識の設置・更新・修繕を41基行った。	
一括交付金(ハード)	直接実施	60,773	84,454	118,446	138,379	174,528	186,247	一括交付金(ハード)	OR2年度: 案内標識の設置・更新・修繕を12基行う。	

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度:	
									OR2年度:	

活動指標名	案内標識の設置・更新・修繕				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	12基	12基	18基	82基	41基	12基	100.0%	174,528	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 案内標識の設置・更新・修繕については、計画値12基に対して、実績値41基であることから順調に進捗しており、外国人観光客を含めた道路利用者の移動の円滑化が図られ、観光振興に資することができている。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ・人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりのため、案内表示の充実強化について、道路案内標識の英語表記については、表示内容を点検し、国・県の道路管理者が一体となり、必要に応じ協議し、引き続き、修繕・更新の整備を行う。 ・沖縄ブロック標識適正化委員会にて積極的に情報提供し、案内箇所、案内ルート、英語表記内容を検討し整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内標識について、下地島空港の開港に伴い、宮古管内にある、宮古空港と下地島空港の英語表記の区別をつけるため、宮古空港の表示「AIR PORT」を沖縄標識適正化委員会で定めた名称「MIYAKO AIRPORT」に修正した。 ・沖縄ブロック標識適正化委員会にて、「道の駅 サンライズヒガシ」など3施設を案内箇所、案内ルート、英語表記内容を決定し著名地点に登録した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・改良道路の開通に伴い、周辺道路等と連携した案内標識設置の在り方や、道路網整備の進捗により、観光地への案内ルートの変更の必要性が生じている。

○外部環境の変化

・地域から特定の施設や観光地へ利用者を安全かつ円滑に誘導するため、案内標識の設置要望が上げられている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・特定の施設や、観光地への案内は、国、県、NEXCOの管理する道路を経由して案内することもあるため、ルート選定や、変更は、道路管理者間で調整を行い連携していく必要がある。

・観光立県として、道路案内標識が外国人旅行者にも分かりやすいものとなるように国・県の道路管理者が一体となり、案内箇所の英語表記方法、ピクトグラムの表示方法など検討していく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・案内標識に関する要望や協議事項が生じた場合は、沖縄ブロック道路標識適正化委員会で積極的に情報提供し、国、県、NEXCOの道路管理者で協議し、案内地点の登録、案内ルートを検討し、英語表記内容については、有識者の意見を踏まえ、案内標識の整備向上及び表示内容の充実を図っていく。